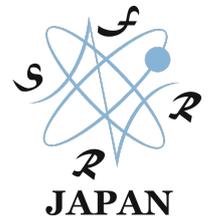


# SFRR Japan NEWSLETTER

June, 2025



## TOP NEWS

### ◆◆◆ 役員選挙について ◆◆◆

本年は役員選挙の年となります。  
2024年5月18日から選出された役員(理事・監事)・代議員全員が来年2026年の年次学術集會にて任期満了を迎えますので、2025年8月から次期役員のご公示をおこないます。  
詳細は、学会HPを参照ください。  
<http://sfrrj.umin.jp/ellection/>



【お詫び】NLの6月号発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

### ◆◆◆ 理事長 ご挨拶 ◆◆◆



葉月のご挨拶



理事長 赤池孝章  
(東北大学大学院医学系研究科・教授)

本年は例年以上の厳しい猛暑が続いておりますが、学会員各位におかれましては益々ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

昨年2024年に日本酸化ストレス学会理事長を拝命し1年が経過いたしました。この間、主要なSFRR関連学会としては、2024年10月北京にて第11回SFRR Asia 2024が、2024年12月にオーストラリア・キャンベラでSFRR A+J、2025年6月にはアイルランド・ゴールウェイにて第22回SFRR International 2025が開催されましたが、いずれにも本学会会員が多数参加いたしました。これらの国際会議においては、当学会会員によるレドックスシグナル伝達および代謝制御分野に関する研究成果が多数報告され国際的に高い評価を得ており、日本の学術コミュニティから発信された最先端の知見は、世界規模で注目を集めています。

なお、本年より、東北大学の本橋ほづみ教授がSFRR Presidentに、九州大学の西田基宏教授がSFRR Asia President Electに就任される運びとなりました。さらに、ゴールウェイで開催されたSFRR International会議において、第23回SFRR International会議が2027年3月28日から31日にかけて仙台国際センターにて、本橋教授を大会長として開催されることが正式に決定いたしました。これを契機に、SFRRを基軸とした国際的連携の強化を図り、日本発の先進的研究成果を積極的に発信することで、学会全体の発展およびグローバルな学術交流のさらなる展開が期待されます。一方近年、国内外でフリーラジカル・レドックス生命科学研究が急速に深化しています。近年の動向を受けて、日本では2021年より学術変革領域研究(A)「硫黄生物学」、さらに2023年からは科学研究費国際先導研究「レドックス超分子生命科学(G-ReXS)」など、大規模な公的研究支援事業が開始されました。これらの事業の一環として、2025年4月17日～21日に仙台(東北大学)で開催された国際シンポジウム「Redox Week in Sendai 2025」には本学会会員を含めた多数の研究者が参集しました。このようなグローバルな学術交流および情報発信の積極的な展開に伴い、日本酸化ストレス学会の存在感と学術的貢献が国際的にも高く評価されつつあります。国内外の研究者間ネットワークは着実に拡張しており、共同研究の推進や人材交流の機会も増加しているところです。今後は、学会主導の研究拠点形成、若手研究者頭脳循環、新たな学際領域創出など、多岐にわたる活動に発展することが期待されます。

一方、日本国内においては、本年5月に小田原市にて東海大学医学部・鈴木秀和教授を総会長として第78回日本酸化ストレス学会学術集會が開催され盛會裏に終了いたしました。来る2026年6月18日～19日には、第79回学術集會を名古屋にて開催する予定であり、現在、名古屋立大学・中川秀彦教授を中心に万全の体制で準備が進められております。さらには本月には南紀白浜にて若手研究者(代表:岐阜薬科大学・神谷哲朗准教授)を主軸とした日本酸化ストレス学会若手の会(フリーラジカルスクール2025)が開催され、従来にない多数の参加者を得たことから、次世代研究者層の研究力が著しく向上していることを実感しております。今後も本学会は、国際的な学術拠点形成事業への若手研究者の積極的な参画を促進し、医学・生物学・薬学・化学各領域にまたがる学際的レドックス・フリーラジカル研究分野の人材育成および学術交流活動の一層の発展に尽力してまいります。日本酸化ストレス学会会員各位におかれましては、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### ◆◆◆ 年次学術集會開催報告 ◆◆◆

#### 第78回日本酸化ストレス学会学術集會



会期: 2025年5月22日(木)～24日(土)  
会場: ミナカ小田原コンベンションホール・ホテル天成園 小田原駅別館  
<https://www.minaka-odawara.jp/>  
会長: 鈴木秀和  
(東海大学医学部医学科内科学系消化器内科学教授)

第78回日本酸化ストレス学会学術集會および第50回日本微小循環学会総合同学術集會が2025年5月22日～24日の3日間、小田原駅近郊のミナカ小田原コンベンションホールで開催されました。テーマは「微小循環と酸化ストレスから生命科学を紐解く」として、両学会は、疾患発生の場(生体反応の場)となる臓器微小循環床、そして、当該部位での血管性・炎症性・腫瘍性・機能的病変での酸化ストレス・酸素代謝の生理病態、さらには治療を扱う基礎研究・トランスレーショナル研究の要を扱う学会として、今後益々発展が期待される領域を担っており、病態・診断・治療・予防の理解を深め、それらの知識を広く普及させるための生命科学・医学の研究・教育を充実させるとともに、科学技術の粋を生かして、より有効な解析法を模索し、人類の生活の質の向上や疾患治療薬開発の推進の責務も担っており、多くの研究者が集う学術集會となりました。両学会会員や招待者を含め317人のご参加をいただきました。今回は合同シンポジウムとして5セッションを開催し、特別講演として、理事長の赤池孝章教授(東北大学大学院)「超硫黄レドックス生命科学から見た生物進化論の新たな視点」と題し極めて格調高い、ご講演をいただきました。そしてANMA-SFRRJ-JSM International Joint Symposiumと題した国際シンポジウムも開催されました。さらに、日本酸化ストレス学会学会賞、学術賞受賞講演でもすばらしい講演をいただき、一般口演、ポスターについても併せて120を超える演題となり、基礎から臨床まで非常に幅広い領域から発表が行われ、初めての3日間の開催でありましたが、各会場で非常に多くの参加者によって熱心で活発な意見交換や討論が繰り広げられました。学術集會を通じて、酸化ストレスや微小循環が生命科学の重要な領域であることを参加者の皆様に発信していただき、盛會裏に終了することができました。これも一重に、ご参加いただきました会員の皆様、ご支援いただきました企業の皆様、そして学会事務局の関係者ら、全ての方々に深く感謝申し上げます。報告とさせていただきます。



### ◆若手奨励賞応募の際のご注意◆

#### ◆◆◆ 学術奨励賞応募について ◆◆◆

##### 一般演題公募と同時に公募致します。

1) 酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する。ただし、研究業績はその主要な部分が日本国内で行われたものに限る。

2) 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

##### 学術奨励賞応募の際のご注意!

会員歴不足の為、応募取り下げとなるケースが多く見られます。

上長・指導者は、若手奨励のために、早めのご入会をご留意下さい。

応募に際しては、**会員歴にご注意ください。(入会した年を1年目とする。)**  
2025年応募の場合は、2023年もしくはそれ以前に入会している必要があります。(2023,2024,2025で3年)

～ 2025年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

各選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

「2025年度 学会賞 を受賞して」



長崎 幸夫

(筑波大学数理解物質系・教授)  
(現 筑波大学研究員・国立成功大学 ナノメディンセンター 玉山フェロー筑波大学)



このたびは、栄誉ある日本酸化ストレス学会賞を賜り、たいへん光栄に存じます。赤池孝章理事長をはじめ、選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、これまでご指導いただいた諸先生方、共同研究者の皆様、そして長年支えてくださった研究室のメンバーに深く感謝いたします。私はもともと高分子科学分野を専門とし、両親親性高分子の自己組織化を利用した生体機能材料の設計に長年取り組んでまいりました。2004年に筑波大学に着任後、新たな研究の展開を模索する中で、松井裕史先生、平山暁先生に「誘い込まれ」、日本酸化ストレス学会に入会し、酸化ストレス研究という新たな領域に挑戦することとなりました。

この中で、高分子科学の知見を活かし、従来の低分子抗酸化剤が持つ副作用や生体内での速やかな排泄といった課題を克服すべく、ブロック共重合体から自己組織化される抗酸化ナノ粒子(NanoAOX)の設計に取り組みました。正常細胞への不要な取り込みを低減し、ROSが蓄積する局所(疾患部位)でのみ機能することを目指したものです。

このアプローチは、潰瘍性大腸炎やアルツハイマー病、虚血再灌流障害など多岐にわたる酸化ストレス関連疾患に対して有効性を示し、その後、腸内での選択的ROS除去という新しい概念に発展しました。最近では、腸内の酸化ストレスが運動能低下、うつ病、がん悪液質といった全身性疾患の発症・進展に深く関与することを明らかにし、腸内ROS制御を介した全身疾患の新たな治療戦略としての可能性を示してきました。

私は本年3月末をもって筑波大学を定年退職いたしました。引き続き筑波大学にて研究を続けており、また、台湾・国立成功大学で新たな研究室を立ち上げ、腸管酸化ストレスと全身疾患の関係をさらに深化させるべく取り組んでおります。「必要なのは学歴ではなく学問だよ。学歴は過去の栄光。学問は現在に生きている。」(田中角栄)という言葉の通り、常に新しい知の探求を楽しみながら、これからも挑戦を続けていきたいと考えています。

今後とも、本学会がますます発展し、多くの優れた研究成果が世に出ていくことを心より期待しております。微力ながら学会の活動に貢献してまいりたいと存じます。



「2025年 学術賞 を受賞して」



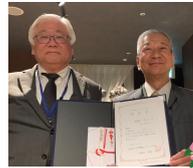
井田 智章

(東北大学大学院 医学系研究科  
レドックス分子医学分野・特任教授)



このたび、日本酸化ストレス学会より学術賞の栄誉を賜り、心より光栄に存じます。赤池孝章理事長(東北大学卓越教授)、ならびに選考委員各位に深甚なる謝意を表します。また、日頃よりご高配とご指導を賜っております諸先生ならびに先輩諸氏に、重ねて御礼申し上げます。私は大阪府立大学大学院(現大阪公立大学)博士後期課程にて、居原秀先生(現大阪公立大学教授)指導のもと、一酸化窒素および活性酸素種の下流で生じる新規セカンドメッセンジャー 8-nitro-cGMPについて、質量分析装置を用いた生体内計測技術の開発研究に従事しました。この経験と知識が、その後の8-nitro-cGMP代謝化合物探索で超硫黄オミックス解析を構築する技術的基盤となりました。超硫黄研究では多くの困難がありましたが、赤池孝章教授や先輩・同僚の皆さまのご指導と支援のおかげで粘り強く研究を続けることができました。本受賞を契機として、今後は超硫黄分子を基盤とするフリーラジカル・レドックス研究ならびに酸化ストレス学会の発展に一層尽力する所存です。引き続きご指導、ご高配を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

おめでとうございます



学会賞(長崎幸夫)



(永根 大幹) 学術賞(井田 智章)

「2025年 八木記念学術奨励賞 を受賞して」



奥泉 伶菜(東京工科大学)



この度は、栄えある八木記念学術奨励賞を賜り、身に余る光栄に存じます。赤池孝章理事長ならびに、選考に携わっていただきました先生方に、心より感謝申し上げます。また、日頃よりご指導いただいている先生方、共同研究者の皆様にも、深く感謝申し上げます。私は、コエンザイムQ10の役割に着目した研究に取り組んでおります。研究者としてはまだ道半ばではございますが、本受賞を励みに、これからも一歩ずつ研究に取り組み、酸化ストレス領域の発展に微力ながら貢献できるよう、努力を重ねてまいります。

「2025年 学術賞 を受賞して」



永根 大幹

(麻布大学 獣医学部 生化学・講師)



このたび、歴史と活力を兼ね備えた日本酸化ストレス学会より 2025 年度学術賞を賜り、身に余る光栄に存じます。赤池孝章理事長ならびに学会賞・学術賞・功労賞選考委員会の先生方に、心より御礼申し上げます。また、平素よりご指導・ご協力くださる諸先生方、共同研究者の皆様、そして学生の皆さんに深く感謝いたします。

私は2010年に麻布大学獣医学部を卒業し、北海道大学大学院獣医学研究科(現・獣医学研究院)に進学しました。稲波修先生のもと、固形腫瘍の再酸化という古典的な放射線応答の分子機構を解明する研究に従事し、その中で血管内皮細胞の放射線応答と細胞老化現象に着目するようになりました。その後、Dartmouth CollegeのKuppusamy先生の研究室に博士研究員として勤務し、電子スピン共鳴法を用いた多彩なプロジェクトに携わる機会を得ました。

日本酸化ストレス学会との深い結び付きの原点は、2012 年に館山で開催されたフリーラジカルスクールです。当時の私は大学院生として「学会は受動的に参加するもの」と考えていましたが、多くの先生方から啓発を受け、学会は各会員が主体的に「発展させていくもの」と強く認識いたしました。

今後 5~10 年の展望としては、大学および学会における教育の責任を全うしつつ、自らの専門性に根ざしながらも“General Interest”を喚起できる研究を発信してまいります。また、若手の会をはじめとする学会活動に積極的に参画し、本会のさらなる発展と人材育成に尽力する所存です。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年度「功労賞」に下記2名の先生が選出されました。

金沢 和樹 先生(名誉会員)

(神戸大学名誉教授)

内海 英雄 先生(名誉会員)

(九州大学名誉教授)



～ High Citation Award ～

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)において、前年度第一著者として受理された論文の中で、引用が多く、IF向上の為に貢献のあった論文に授与するものです。2025年度は、下記の2件に授与されました。

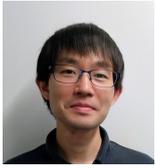


2025年度受賞者: 以下2件

(1) 総説: 16件 in 2024 Tetsuro Kamiya (Copper in the tumor microenvironment and tumor metastasis, p22-28, Vol. 71(1), 2022)

(2) 原著: 8件 in 2024 Kenichiro Mikami, et al. (Association of serum creatinine-to-cystatin C ratio with skeletal muscle mass and strength in nonalcoholic fatty liver disease in the Iwaki Health Promotion Project: p273-282, Vol. 70(3), 2022)





「2025年 学術奨励賞を受賞して」

緒方星陵  
(東北大学大学院医学系研究科)



この度は、名誉ある日本酸化ストレス学会学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。選考に携わって頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております赤池孝章先生をはじめ、研究室のメンバー、共同研究者の皆様にも深く感謝申し上げます。現在の研究対象である超硫黄分子に関する研究領域は、近年急速に発展しており、今後とも本研究分野の発展に貢献できるように益々精進して参りたいと思います。引き続き御指導、御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。



「2025年 学術奨励賞を受賞して」

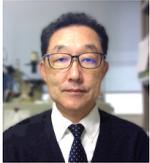
房 知輝  
(山形大学医学部 メディカルサイエンス推進研究所)



この度は、日本酸化ストレス学会の学術奨励賞を頂戴しまして、誠に光栄に存じます。赤池孝章理事長、鈴木秀和大会長をはじめ、選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。今回発表した成果は、山形大学における5年間の取り組みの集大成であり、ご指導を賜りました藤井順逸先生には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。本年4月より母校の北海道大学の講師として着任し、新たな一歩を踏み出したばかりではございますが、今回の受賞を励みにさらに精進し、酸化ストレス研究の発展に貢献してまいりたいと存じます。引き続き、皆様にはご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます

◇◇◇ 次期年次学術集会案内 ◇◇◇

第79回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期:2026年6月18日(木)~19日(金)  
会 場:岡谷鋼機名古屋公会堂  
(〒466-0064名古屋市中昭和区鶴舞一丁目1番3号)  
(<https://nagoyashi-kokaido.hall-info.jp/>)  
会 長:中川 秀彦  
(名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授)



第79回学術集会は、酸化ストレス研究にゆかりの深い名古屋の地で開催させていただくこととなりました。名古屋中心部に位置する鶴舞公園内にある歴史的建物である名古屋公会堂で開催します。特別講演として、東京大学医科学研究所教授の中西真先生にご講演をお願いいたしました。またこれまでの学術集会同様、YIA講演、受賞講演等も予定しております。ホットなトピックスでシンポジウムも企画したいと準備を進めております。なお、今回の学術集会は、日本レドックス超分子医学生物学会との合同学術集会として開催することとなりました。多くの皆様のご発表ご参加をお待ちしております。ぜひご演題・ご参加をお願い致します。詳細については後日お知らせいたします。



2024年度学会賞・学術賞 受賞記念講演

第78回年次学術集会にて行われ、受賞記念の楯が授与されました。  
おめでとうございます。



学会賞(松井裕史)



学術賞(安井博宣)



学術賞(平山 祐)

◇◇◇ 支部だより ◇◇◇

東海支部

東海支部では2025年2月8日(土)に名古屋大学の田中宏昌先生を実行委員長として第13回支部学術集会を名古屋大学 野依学術記念交流館(愛知県名古屋市)にて開催しました。教育講演として岐阜県立大学教授の原宏和先生にご講演いただき、一般発表として9件の口頭発表および7件のポスター発表を行いました。若手研究者、学生も多く参加し議論が大いに盛り上がりました。また、同館にて情報交換会を実施し研究者同士の交流を深めました。2025年度の支部学術集会は次のように開催されます。

第14回(2025年度)日本酸化ストレス学会東海支部学術集会

会 期:2026年2月7日(土)13:00~17:00(予定)  
会 場:B-nest 静岡市産学交流センター(予定)  
特別講演:西村明幸先生(生理学研究所)  
演題登録締切:2026年1月9日(金)  
参加登録締切:2026年1月30日(金)



東海支部 中川秀彦

関東支部

次回年次学術集会を下記の通り予定しております。

日本酸化ストレス学会関東支部第38回学術集会  
日 時:2026年2月19日(木)  
会 場:東京工科大学蒲田キャンパス 3号館10F  
会 長:藤沢次雄(東京工科大学応用生物学部)



日本コエンザイムQ研究会との共催、テーマは酸化ストレス研究50年と健康長寿へのアプローチ(仮)です。本会 名誉会員であります二本鋭雄先生にご講演を頂く予定です。

関東支部 李 昌一

第78回日本酸化ストレス学会学術集会における  
シンポジウム・フリーラジカルスクール2025について  
~若手の会活動報告~



神谷 哲朗 (岐阜県立大学)

第78回日本酸化ストレス学会学術集会(2025年5月22日~24日)において、シンポジウム「電子スピン共鳴(ESR)測定で拓く酸化ストレス研究」を開催いたしました。ESRの基礎から応用、今後の展望など幅広く議論することができました。ご講演いただきました稲波 修先生(北海道大学)、市川 寛先生(同志社大学)、堀谷正樹先生(佐賀大学)に改めて御礼申し上げます。また、8月7日~8日には「フリーラジカルスクール2025」を白浜温泉紀州半島で開催し、皆様のご協力で盛会に終えることができました。学生・若手研究者発表は28件!ということもあり、口頭発表に加えて、急遽ポスター発表も行う運びとなりました。熱い発表と質疑応答が遅くまで行われ、ベテラン講師陣の先生方との楽しい交流もありました。今後も学術集会でのシンポジウム、フリーラジカルスクールを通して、酸化ストレス研究の発展に貢献していきます。若手の会にご興味のある方は事務局までご連絡ください。(mail: yfr.since2020@gmail.com, HP: <https://yfrsince2020.wixsite.com/my-site>)



◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性がありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

SfRBM's 32nd Annual Conference

Date: November 19-22, 2025  
Venue: Washington DC, USA  
HP: <https://sfrbm.org/meetings/sfrbm-2025/>



The 12th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia)

Date: December 16-18, 2026  
Venue: Nimmanhaemin road area, Chiang Mai, Thailand  
Organizer: SFRR Thailand & Multidisciplinary Research Institute, Chiang Mai University, Thailand



JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中！  
<https://www.editorialmanager.com/jcbn/>

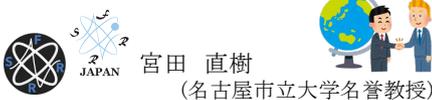
IF: 1.7 2024 Journal Impact Factor (JIF)  
頁チャージは会員特別割引価格を設定しています。

Editorial Secretariat for JCBN: [jcbn@nacos.com](mailto:jcbn@nacos.com)

新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第13回



国際フリーラジカル学会(SFRRJ)の思い出



宮田 直樹 (名古屋市立大学名誉教授)

私が初めてSFRRJの学術集会に参加したのは、1988年の京都であり、以降、パサデナ、トリノ、バルセロナなどで開催された学会に参加し、多くの思い出が残っている。アメリカで開催された学会で、モーニングセミナーに参加し、著名な大先生が、酸化ストレスに関わる大学院講義レベルの知識を、熱く講演されるのを拝聴した。興味を持ったのは、内容もちろんであるが、教え方であり、大学で教職に就く自分にはとても参考になった。もう一つ、酸化ストレス研究の基盤の一つとして有機化学を大切にする学会のスタンスに感銘を受けた。この立ち位置は、日本酸化ストレス学会(SFRRJ)も共有しており、有機化学的手法で研究を行ってきた私にとって、SFRRJはとても親しめる学会となった。これからもこの立場を堅持していただきたいと願う。もう一つは、1998年にサンパウロで開催された集会の時の個人的な思い出。当時、私たちは、光励起フラーレン(C60)から発生する活性酸素種に関する研究を行っていた。当時、光照射C60から有機溶媒中で一重項酸素が発生することは実証されていたが、私どもは、水溶液中生理的還元条件下ではスーパーオキシドが発生していると予測した。予想的中し、その発生を物理化学的手法で証明し、生物作用も明らかにすることができたので、その内容をアメリカの専門誌に投稿した。私たちがSFRRJのサテライトミーティングに参加したのは、その主催者であるF先生が当時の一重項酸素研究の第一人者であり、彼のところに審査が回っていると考えたから。発表に対して、彼からは、一重項酸素が発生していないことを確認する質問があったが、それ以外特に重要な指摘はなかった。発表後、会場において親日家で知られるドイツ人のS先生に「この内容はすでに投稿済みか」と問われたので、「Yes」と答えると、「採択されなかったらすぐに私のところに送れ」とやさしくアドバイスをいただいた。幸いにも、その投稿論文は速やかに採択され、S先生のお世話になることはなかった。F先生には、数年後にハワイで開催された学会の時に、個人的なパーティに招待され、お礼を述べる機会があった。それにしても、今から思うと、私も若かったと思う。良き思い出の一つである。



◇ SFRR International & Asia News ◇

【SFRR Asia】

次回 Biennial Meeting はタイで2026年12月に開催予定です。詳細は、右コラム 関連学会案内をご参照ください。

【SFRR International】

今年度は下記の通りアイルランドで盛会裏に開催されました。

22nd Society for Free Radical Research International Biennial Meeting

Date: June 3-6, 2025  
Venue: Galway, Ireland  
Contact : <https://www.sfr-europe.org/>  
(hosted by SFRR Europe)



今回は日本が担当し、下記の通り開催予定です。

23rd Society for Free Radical Research International Biennial Meeting

Date: 2027年3月29日(月)-31日(水) (予定)  
Venue: 仙台国際センター(宮城県仙台市)  
担当: 赤池理事長、本橋理事 (hosted by SFRR Japan)



\* President-elect 本橋ほづみ先生が、本年7月より正式にPresidentに就任されました。おめでとうございます！

【SFRR Australasia and Japan】

次回開催については検討中。  
\*前号での2024年度YIAの受賞者に記載漏れがありましたので、ここにお詫び申し上げますと共に訂正申し上げます。  
2024年12月にキャンベラで開催されました第11回SFRR A+J Biennial Meeting では、下記アワードについては、お二人が選出されました。  
SFRR Australasia選出Young Investigator Award  
丹羽 良介 (同志社大学大学院 生命医科学研究科)  
中西 紘一 (大阪公立大学大学院医学研究科) \*Japanとダブル受賞

関連国際学会では若手奨励賞(YIA)を募集予定しています。多数のご参加を期待しております。SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

昨年秋から、10月のAsia, 12月のA+J、そして今年6月のInternationalと関連国際学会が続き、多数の先生方に現地参加を頂きました。コロナ禍の閉ざされた日々を取り返すように、久しぶりに対面の活気のある学会が続き、皆様の研究意欲も高まったのではないのでしょうか。事務局としては、種々準備があるので、本当ですと、もう少し間隔をあけて開催してくれるといいのになあ、、、と思うところもありましたが、参加者のイキイキした様子、またYIA授与の際の嬉しそうな若手会員の笑顔を見ますと、頑張って準備して良かったなあと思われ報われるものです。反面、国内では相変わらず、インバウンドの勢いは止まるどころか更に増し、ごみ処理・交通渋滞・ホテル代の高騰など様々な問題も浮上し、国際交流の難しさも感じるところです。今年は大阪で万博が開催されています。賛否両論あるようですが、会期終盤に向けて、更に盛り上がりを見せているようです。不思議に国際博覧会とはいえ、事務局のある京都市内での海外率の方が高く、万博会場では日本人率が高いような気がするの、気のせいでしょうか！？。会期後少し、是非確かめに行かれては？ 諸般の事情から NLの発行が遅れたことにお詫び申し上げます。掲載希望の記事などございましたら、編集事務局宛ご連絡をお願いします。



SFRR Newsletter 2025年6月号

発行: 2025年8月20日  
一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局  
(総務委員会: 半田 修・犬童寛子・中西郁夫)  
法人事務局: 〒602-8048  
京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内  
Tel: 075-415-3661 Fax: 075-415-3662  
内容に関するお問い合わせ: E-mail: [sfrj@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp)  
HP: <https://sfrj.umin.jp/>